第54回「China Aid 2016」開催

日中福祉交流コーディネーターが見る

上海福祉の今

日中福祉プランニング代表　王　青

プロフィール
中国上海市出身。1989年留学のため来日。語学学習を経て大阪市立大学経済学部卒業。95年より日本企業介護福祉関係部署に勤務。上海市民政局や、上海市障害者連合会などとの長年の親交があり、上海市と日本の介護福祉分野の交流・ビジネスを支援してきた。2002年7月フリーに。福祉分野を中心に日中のコーディネーターとして活動中。市場調査、マスコミ取材、ビジネス支援、視察企画など多くの案件を実現してきており、上海福祉分野に関しては第一人者である。

来年　上海で介護保険誕生

中国最大級の福祉機器展「China Aid 2016」が6月8日～10日、上海で開催されました。11回目となる今回は世界18ヵ国、300社の企業が出展し、初日から会場内は大勢の来場者で賑わいました。

このような熱気の背景には、急速に進む深刻な高齢化があげられます。上海のような大都会では、特に少子化に拍車がかかり、年々高齢者人口が増えています。政府が民生問題を重視する姿勢も、これまでより一段と強くなり、民間や外国資本の参入を促す姿勢を全面的に出しています。政府からの後押しがある環境の中で、中国国内において、介護ビジネスに参入する企業が沢山出てきました。

出展内容も、以前は機器や設備がメインだったのに対して、今年は施設の企画・運営管理や介護サービスなど、ソフトが大幅に増えました。ブースはハードとソフトの2つのカテゴリーに分けられています。

今年は日系企業の出展が非常に目立つようになりました。トヨタ自動車、帝人、パナソニック、松永製作所、エレクター、横浜市の中小企業の共同出展もありました。来場者は車椅子やベッドだけでなく、ITやリハビリ関連のブースにも関心を寄せています。

▶来場者で賑わう会場内

そんな中、日本貿易振興機構（ジェトロ）主催の「日中高齢産業ビジネス商談会」が会場内で開催されました。介護用品やサービスを手掛ける日系企業47社に対し、中国側は150社以上の申し込みがありました。

ジェトロ関係者によると「これまでの開催の中で最大規模となり、手応えを感じました。日本の企業が持っている技術、ノウハウに対する中国側の関心が非常に高いと感じました」と今回のイベントを振り返ります。

また展示会では、これまでずっと囁かれた待望の介護保険がついに来年1月1日に正式に誕生するという重大な発表がありました。これは上海市範囲内独自の制度で、まず上海の三つの区で試験的に実施するということです。

中国より20年も早く高齢社会を迎えた日本。

経済発展とともに政策も徐々に整えて来た状況の中、億単位の高齢者人口を抱える国を隣にして、今如何に向き合うべきなのか。理念をハードに反映させ、人対人のソフト部分も如何にビジネスという形で伝えていくのか。真価が問われるこれからであると考えます。